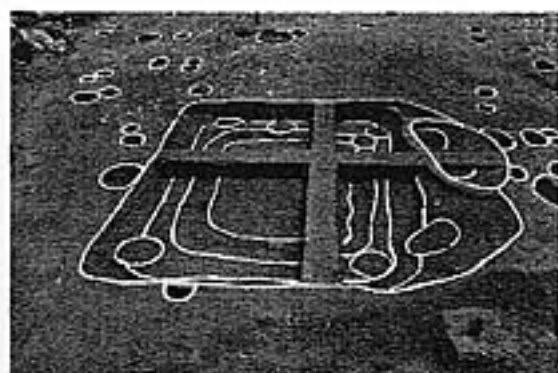
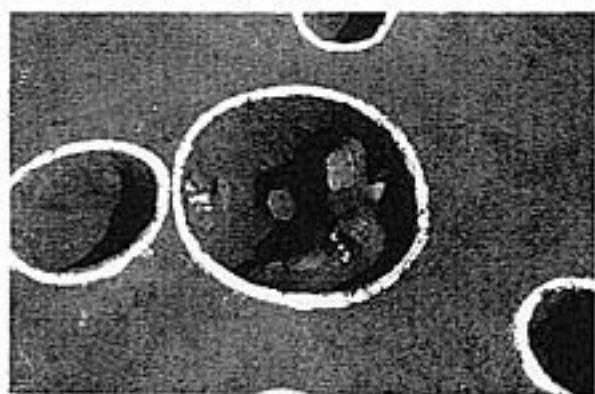


# 石堂野B遺跡

現地説明会 2000. 9. 24 (日) 13:00~



(財) 愛知県教育サービスセンター  
愛知県埋蔵文化財センター

<http://www.maibun.com>

## 1 歴史的環境

石堂野B遺跡は、JR東海道本線愛知御津駅北西へ約2km、愛知県宝飯郡御津町に位置しております。遺跡は、御津町から菰野市にかけて東西方向に伸びる断層谷の北側、北西から南東に舌状に下る丘陵の平坦地に立地しており、標高は31m前後です。

石堂野B遺跡付近の主な遺跡についてみますと、縄文時代では南東2.3kmに林田遺跡や河原田B地点遺跡があります。弥生時代では、南東2.3kmに長床式土器を出土した弥生時代中期後半の長床遺跡、北東300m山麓に流水文銅鐸を出土した灰石銅鐸出土地、東方1.5kmの台地に弥生時代後期の国府高等学校遺跡、その東方200mには同じく弥生時代後期の坊入遺跡などがあります。

古墳時代では、北東1kmの丘陵に古墳時代中期の大入山1号墳、音羽川をはさんだ対岸1kmの台地に同じく古墳時代中期の船山第1号墳（前方後円墳、全長96m）、石堂野B遺跡南東800mに古墳時代後期の船山古墳（前方後円墳、全長37m）があります。さらに遺跡の北方400mの小丘陵の頂部に古墳時代後期の穴観音古墳（円墳、全長16m）があります。

律令制下にはいると、この付近一帯は三河の中心的地域となり、三河国衙推定地や三河国分寺跡・三河国分尼寺跡などが築かれていきます。さらに同時期の寺院としては、御津町に所在する弥勒寺跡、小坂井町に所在する医王寺跡、豊川市に所在する山ノ入遺跡が知られ、ともに白鳳時代の古代寺院を裏付ける軒丸瓦・軒平瓦を出土しています。また、国衙推定地の北方1.3kmには西明寺西瓦窯跡があります。なお、国衙推定地の南側より御津町一帯にかけては、条里遺構が良好に残存している地域として著名であります。

中世末から戦国時代になると、この地域一帯が遠江の今川氏と三河の松平氏とが対立する場所となり、領主が頻りに交代し、それに伴って東海道などの街道沿いにおいては城や砦が多数築造されました。石堂野B遺跡の北方200mには茂松城（高坂城）跡などがあります。

愛知県埋蔵文化財センターでは、石堂野B遺跡発掘調査以前にも過去2度にわたり、御津町での発掘調査を実施いたしました。ひとつは昭和60年実施の石堂野遺跡（現県立御津高等学校敷地内）、そしてもうひとつは平成11年実施の高坂遺跡（新富山地内）です。石堂野遺跡では、竪穴住居13軒、掘立柱建物2軒、竪穴状遺構1基、橋状遺構1～3列、溝2条、土坑1基などが検出されました。また、高坂遺跡では土坑62、不定形土坑15、ピット169、溝2、住居址3などを検出しております。



石堂野B遺跡と周辺の遺跡

1 : 25000

### 3 調査の成果

#### 調査の方法

調査予定地 6200 m<sup>2</sup>は、排土を置いておく場所や現道が横切っていることを考え、3ヶ所(A～C区)に分けました。県道建設予定地の北西側から南西側に向けて、A・B・C区の順で調査区を設け、A区を先行して調査し、現在B・C区を作業中です。

今回の発掘作業では、まず調査区内の表土(耕作土)を機械(バックホウ)によって取り除き、この上に排土処理のためのペグコンパターを配置しました。次に上の堆積状況を観察するため、調査区の外壁に沿って基盤層下まで側溝を掘りました。さらに、調査区内に方位に沿った杭列を5m方眼で設定し、各方眼(グリッド)ごとに基盤層まで掘り下げて遺構を検出しました。

#### 検出遺構

これまでの各調査区では大部分で、耕作土の真下から台地の基盤層である赤褐色または黄褐色粘質土がみられました。中世より前に堆積したと思われる土層は、一部確認できたのみです。

検出できた遺構は、円形小穴 301、土坑 896、住居跡 6、溝 22、火葬墓 1、土塚墓 1、方形周溝墓 1、不定型な掘り込み 42 などです。この中で最も多くみられたものは、直径 25 cm 弱の円形小穴です。これらのごく一部には、深さが 50 cm 以上あるものや底に石が置かれたものなど、あきらかに柱を立てることを目的にして掘られたものが含まれています。小穴の列が、方位を合わせたように長方形に並ぶ建物跡も2ヶ所以上確認できました。これとは別に、欠山式土器を含む、竪穴式住居跡と思われる遺構が複数確認できましたが、中には灰釉陶器を含むものもあり、異なった時代で、それぞれ居住のための場所として利用された可能性が考えられます。

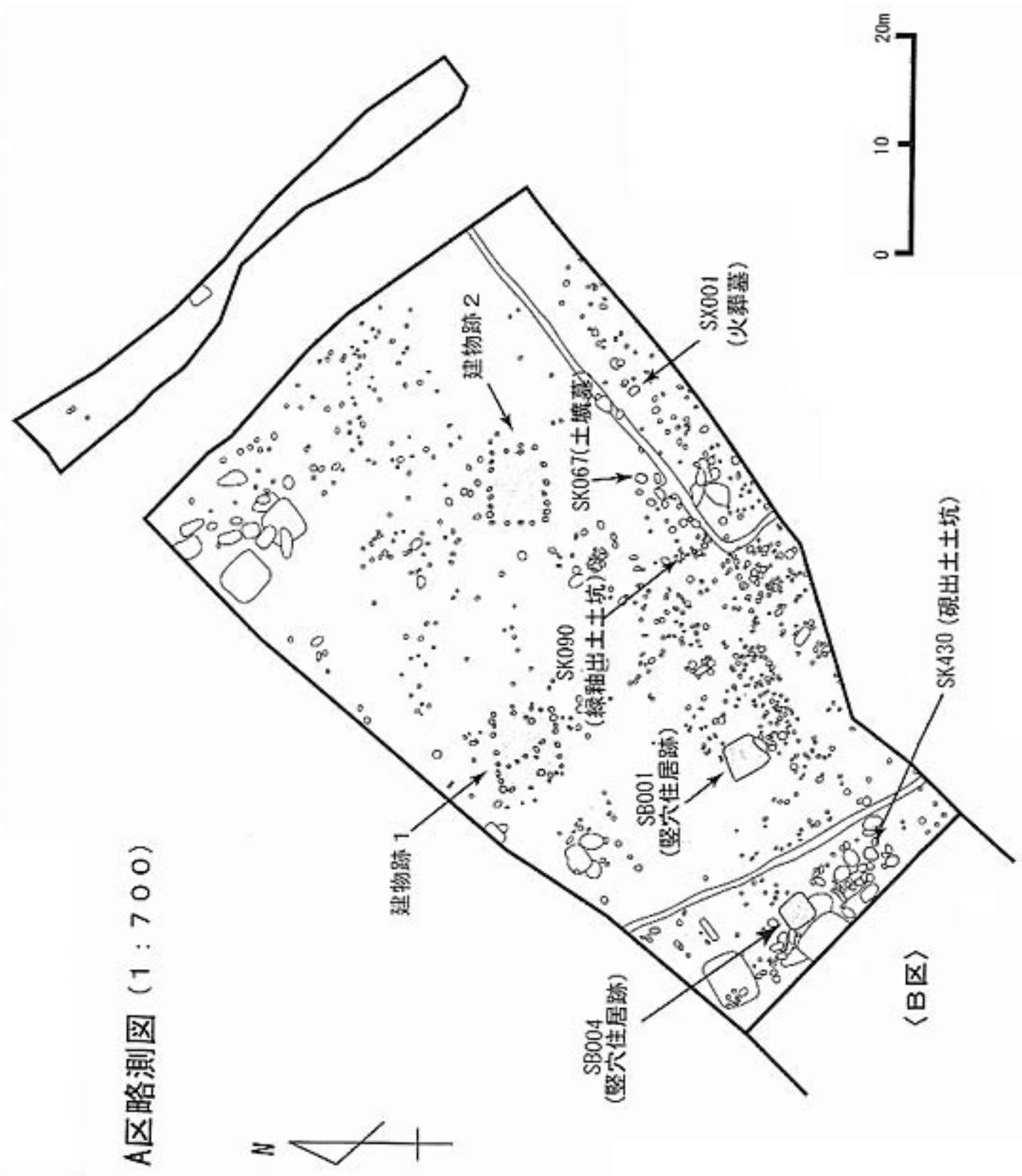
#### 出土遺物

全体量としては少なめですが、古式土師器では、高杯、甕、台付甕、瓢<sup>ひょうご</sup>が、古代のものでは、須恵器の円面硯や緑釉、灰釉陶器碗が、中世以降のものとしては、山茶碗、銭貨、近世陶磁器類が出土しています。

#### まとめ

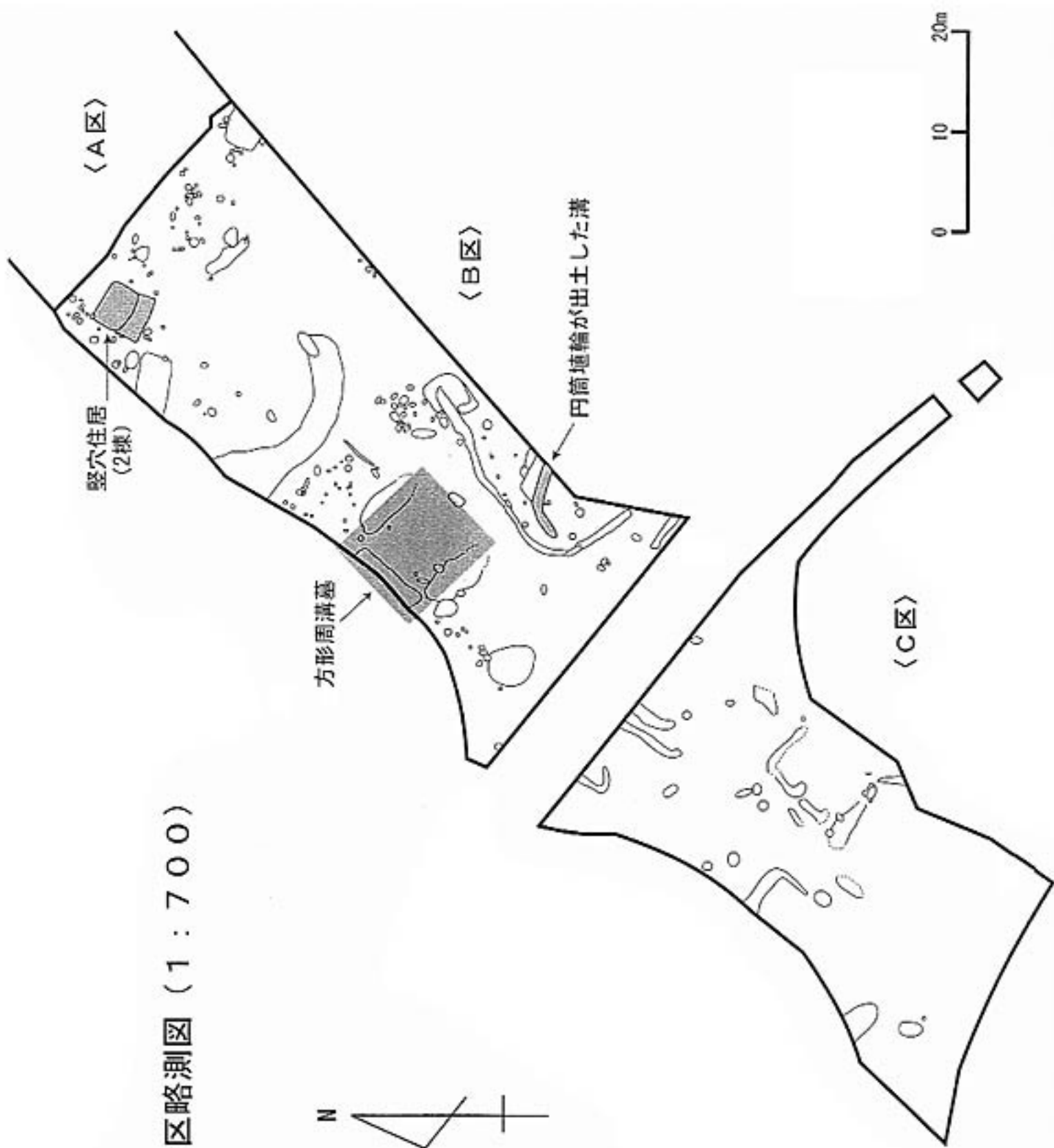
石堂野B遺跡で現在確認されている遺構、遺物は、東三河地域ではあまり確認例の多くない弥生時代末から古墳時代、古代の人々の暮らした跡であり、この時期を解明する上で、貴重な資料となるでしょう。

A区略測図 (1:700)



石堂野B遺跡

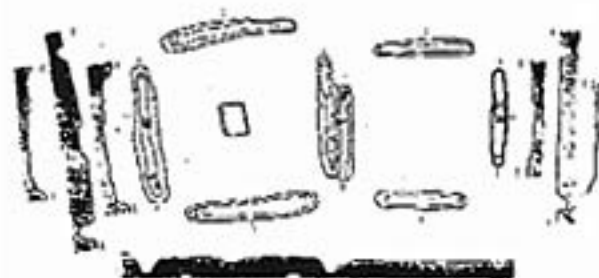
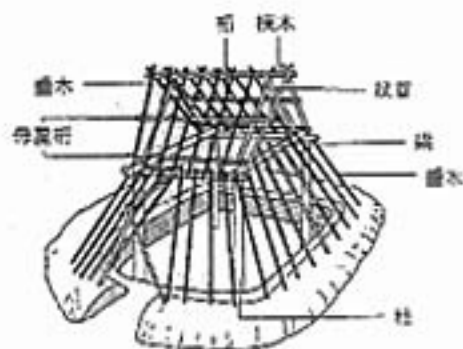
B・C区略測図(1:700)



# 考古学はじめの一步 Q&A

Q: 竪穴住居 (たてあなじゅうきょ) とは?

A: 地面を掘りくぼめ、その底面を平らにして床をつくり、その上に屋根をかけた構造をもつ住居です。床面には、炉・カマド・柱穴などがあり、床面が因く跡みかためられています。竪穴住居跡は、世界各地で見られます。旧石器時代後期の遺跡から発見され、新石器時代以降の代表的な住居形態です。



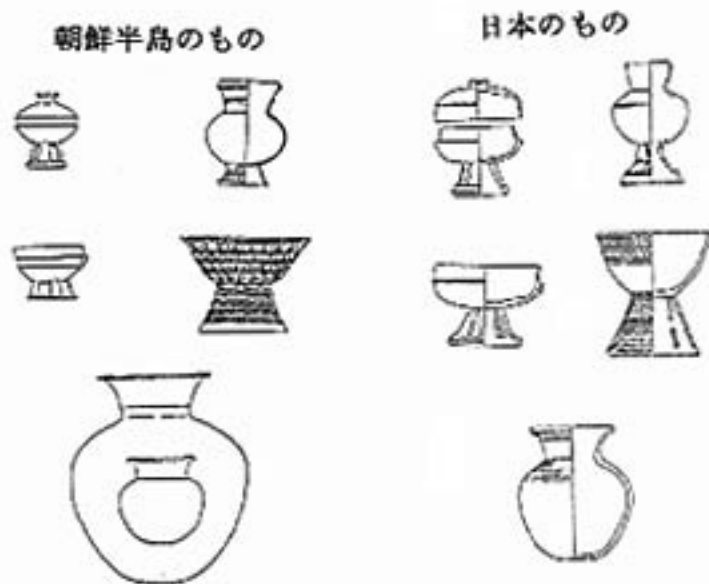
方形周溝墓 (四角形・周溝上流部)

Q: 方形周溝墓 (ほうけいしゅうこうぼ) とは?

A: 弥生時代から古墳時代につくられた墓の一形態です。墓は一辺が 20m 前後で、幅 1~5m、深さ 1~2m の溝が四角に配され、溝はおののが独立したり、連続したものがああります。墓の中央に土壙を掘り死者を葬ったものが多いです。

Q: 須恵器 (すえき) とは?

A: 古墳時代中期末以降に日本で生産された陶質の土器をいいます。須恵器の技術は朝鮮より渡来した者によるとされています。



Q: 土師器 (はじき) とは?

A: 弥生土器の流れをくむ土器で、古墳時代以降に使用されたものです。須恵器と違って基本的には野焼きで、赤っぽい色をしています。



埋蔵文化財センターのホームページ  
<http://www.maibun.com>  
 にアクセスすればいろいろなことが  
 わかります。ぜひ、どうぞ!